

令和2年度第1回金沢市廃棄物総合対策審議会 議事録

■日 時 令和2年7月22日（水） 10:00～11:05

■場 所 金沢市西部環境エネルギーセンター「環境学習室」

■出席者 別紙のとおり

■内 容 以下のとおり

事務局 本日は、大変お忙しい中お集まりいただき、厚くお礼申し上げます。定刻となったので、「令和2年度第1回金沢市廃棄物総合対策審議会」を開催する。

なお、本日の終了時刻は午前11時00分を予定している。

開催にあたり、吉田環境局長から御挨拶申し上げます。

環境局長 本日は御多用のところ、今年度1回目となる廃棄物総合対策審議会にお集まりいただき、また日頃から、本市の環境・廃棄物行政に御尽力いただき御礼を申し上げます。

近年、集中豪雨が頻発し、今年も九州を中心に大雨、土砂災害など、甚大な被害が生じているところである。まさに、気候変動に伴う、自然災害の対応や、地球温暖化への対策は待ったなしの課題となっている。

また、深刻な海洋汚染が問題となっているプラスチックごみへの対応や、日本で600万tを超えると言われていた食品ロスの削減、こうした問題への対応を迫られているところである。

このような中、本市では今年2月に第6期ごみ処理基本計画を策定しているが、市民・事業者との協働による環境負荷の低減を一つの基本方針に掲げており、食品ロスの削減、プラスチック資源循環の実現に向け、様々な施策を展開することとしているところである。

本日は、昨年度のごみ排出量の実績を報告するとともに、今年度策定を予定している金沢市食品ロス削減推進計画について説明差し上げたいと思う。限られた時間ではあるが、委員の皆様には忌憚のない意見・提案を賜り、審議いただくようお願い申し上げます。簡単ではあるが挨拶とさせていただきます。

- 事務局
- ・出席委員の紹介
 - ・代理出席委員の紹介
 - ・欠席委員の報告
 - ・出席委員数は10名であり定足数を満たしていることを報告
 - ・以降の進行を会長へ依頼
- 会長
- 本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝する。
- 近頃、ステイホームの影響で家庭系ごみが増えていると伺っている。自宅で食事をされる機会が増え、食品ロスは減っているのではと期待している。7月1日より全国レジ袋の有料化が始まった。金沢市ではエコバッグが定着していると思うが、コンビニで買い物をした際に、何気なくレジ袋をもらっていたことに気がついた。削減量はたいしたものではないかも知れないが、市民の皆様の意識が高まることが一番良いことかと強く感じている。本日は食品ロス削減推進計画の策定についての議事である。皆様が日頃から感じていることがあると思うので、御意見・御審議のほどよろしく願います。
- 会長
- それでは、令和元年度ごみ排出量の実績（確定値）について、事務局から説明願う。
- 環境政策課長
- （資料1について説明）
- 会長
- これに関し、質問・意見はないか。
- 会長
- 事業系の食品廃棄物の資源回収量というのはどのように把握しているのか。
- ごみ減量推進課長
- 食品廃棄物の資源化量については、事業者が市内の廃棄物処理施設へ持ち込んだ量について報告を受け、掲載している。
- 会長
- もしかしたら全量を把握していないかも知れないが、回収率が良くないのは確かか。
- ごみ減量推進課長
- 市内の廃棄物処理施設での処理量であるため、市外で処理する場合の量は数値に含まれていないことから、少ない数値となっている。市外での資源化についてはアピタや他のスーパーでも行っていると伺っている。

- 会長 次に、金沢市食品ロス削減推進計画について、事務局から説明願う。
- 環境政策課長 (資料2～3について説明)
- 会長 これに関し、質問・意見はないか。
- 委員 アプリの「TABETE」が運用開始し1年ほど経ち、環境省より賞を受けている。この「TABETE」について、アプリ自体の活用事例や使用方法を食品ロス削減の啓発リーフレットに掲載することができないか。私も登録しているが、一度も使用できたことがない。使える人は使えるし、使えない人は使えない、そもそも「TABETE」を知らない人もいると思うが、「TABETE」の存在と使用方法を広めることが大事であり、対策が必要と感じている。また、登録が55店舗は少ないと思うので、利用者と店舗を増やす方法を考える必要がある。
- 環境政策課長 「TABETE」アプリはチラシにも掲載し広報しているが、使用方法については掲載していないため、今後の周知方法について検討していきたい。そのほか、市民向けアンケートも実施しており、その中でフードシェアリングや「TABETE」の認知度を確認している。まだ集計が出ていないが、知らない方が非常に多い状況なので、どのように周知していくかを検討し、食品ロスの削減を目指したい。
- 委員 初めての参加となるため、基本的なことを伺うが、フードドライブに持ち込みをする際に、持ち込みが可能な品目や基準はどうなっているのか。また、持ち込み先として平成30年度に保健所、令和元年度に3カ所に増設となっているが場所はどこで、持ち込み可能な日は決まっているのか。また、これらの内容をごみの分け方・出し方パンフレットみたいな皆が読む冊子に記載するような周知を行っているのか、回答願いたい。
- 環境政策課長 フードドライブについては、賞味期限が1ヶ月以上残っている常温保存できる未開封の食品を対象としている。例えば、レトルト食品や、缶やペットボトルの飲料、調味料、インスタント麺やカップ麺、お菓子などが持ち込まれている。施設は保健所、泉野福祉健康センター、元町福祉健康センターの3カ所である。保健所であれば毎週火曜日、泉野福祉健康センターであれば第1、3、5月曜日など、決められた日に受付をしている。
- 全戸配布しているごみの分け方・出し方パンフレットには、生ごみ減量化の取組については掲載しているが、食品ロスの取組詳細については

記載していない。食品ロスのリーフレットを全戸配布することは難しいため、ごみの分け方・出し方パンフレットの次回作成時にフードドライブの詳細を盛り込むことなどを検討したい。リーフレット自体は公民館や市の施設で配布していく。

委員

いしかわフードバンク・ネットが委託を受けて金沢市のフードドライブ事業を進めている。元々フードドライブの受付窓口は保健所のみであったが、市民の皆様からもっと近くで出したいとの要望もあったことから3カ所に増設し、窓口の近隣の住民には、班回覧でチラシを配布した結果、回収量も増えている。今週月曜に泉野福祉健康センターの受付窓口をしたが、今はお中元のシーズンということで、氷見うどんなど高級な食材も集まり喜んでいる。

諸江公民館では、地区の社会福祉協議会や婦人会と協働で窓口を設置し、直近では30分で16kgもの回収があった。できるだけ近くで出せるということが市民の利便性につながり、このモデル事業を他の公民館でも実施することで身近に出すことができる。日本は贈答文化があることから色々なものをもらうため、好みに合わないものをごみにせず、できるだけ早く他の人に使っていただくサイクルが広がれば良いと感じている。

委員

食品ロスに関する個々の対策について異論はない。背景的な話になるが、2年前に開始された指定ごみ袋収集制度により紙ごみが減った。これまでの取組で減らなかったごみが十数%減ったという実績がある。この当時から食品ロスについても議論はしていたし、婦人会などの団体も色々な努力をしていたが、生ごみに関する抜本的な対策はできなかった。

私は「生ごみ」と言っているが、今は廃棄するものも含めて「食品ロス」と言うようになっており、時代が変わっている。2030年までに食べ残しを半減するという目標があるが、以前はそういう目標はなかった。家庭ごみであれば9,100tをあと10年で半減させるとなると大変な目標であり、達成のためにはかなり抜本的な対策を立てないことには、普及啓発だけでは達成は難しい。

生ごみの減量を達成しているのは規模が小さい自治体であり、金沢市のような人口規模の自治体では同様に減らすのは難しい。岡山県真庭市は人口45,000人程度の自治体であるが、生ごみを堆肥化ではなく液化している。農業をやっている人が多いため、液化したものを市民に無料で配っている。実際に現場を見に行ったが、市役所の横に液状の堆肥が置いてあり、市民がそれを持ち帰っている。金沢市全域では難しいため、金沢市のうち10分の1程度の区画でやってみれば真庭市程度の人口規

模となるため良いのではないか。

食品ロス削減推進計画の策定手順でパブリックコメントや第2回、第3回審議会の開催予定と記載してあるが、一番重要なのは庁内ワーキングである。部局をまたがり仕事をするのは難しく、本当に知識を持った職員が集まり、専門的な知識を持った有識者や事業者などの意見を取り込んだうえで施策を展開していかないと目標の数値を達成するのは難しい。視察に行くなり議論をするなり、取り組むなら今がチャンスだと思うので、しっかり取り組んでほしい。

会長

生ごみの資源化については、第6期計画策定時にも検討事項として時間をかけて考えてほしいと説明した。今回、食品ロスに関する計画を策定するという事で、まだ使えるものをごみにせず分け合うという趣旨だと考える。半減の目標については壁が高いと思うが、生ごみは貴重なバイオマスであるため、これを利用していくというのは重要な視点だと思う。

環境政策課長

国においても、環境省だけでなく、農林水産省、消費者庁も関係していることから、金沢市においても農林水産局、市民局の消費生活センター、教育委員会にもワーキングに入ってもらい、他都市の例も参考にしながら全庁的に計画を策定しようと考えている。

堆肥化施設やプラントの話については、第6期ごみ処理基本計画期間中に検討し、第7期ごみ処理基本計画に盛り込むべき事項と考えており、食品ロス削減推進計画ではここまでの内容を盛り込むことはできないと考えている。

なお、食品ロス量の半減目標については、平成30年度比ではなく2000年度比のため、資料3の9,100tからの半減目標ではないことをお伝えしておく。

委員

人口が変わっていないのだから平成30年度比でも2000年度比でも数値はほとんど一緒ではないか。

環境政策課長

計画策定時には2000年度の数値を踏まえた内容で目標を設定する。

会長

庁内のワーキングについては私も重要だと思う。食品ロス対策は農林水産省所管のため、庁内いろんな方の意見を聞いて進めていくべきである。

委員

食品ロスの削減啓発について、削減に取り組んでいる人と取り組んでいない人がいて、取り組んでいるつもりの人がその間にいる。取り組ん

でいるつもりのおそらく取組の水準が低い。多くの対象に取り組んでもらうかを考えたときには、どういうナッジ（※1）を生成するかが重要である。いろんな所で勉強をするも、会場を出て家に着く頃には忘れていくというのが大半のパターンである。高齢者の方はもったいない精神で意識が高いため、20～30代の子育て世帯の女性に響くナッジを考えるのが一つのアプローチだと思う。もったいないの単位は円で考えるのが効果的であり、良いナッジを考えていただければと思う。

環境政策課長

ターゲットに応じた施策が重要なため、具体的に意見を伺いながらどういったターゲットの時にどのような施策が有効か計画の中で検討していきたい。

委員の言うとおおり、啓発だけでは食品ロスの削減が難しいと考えており、市民アンケートの途中ではあるが、食品ロスに取り組んでいる人、取り組みたい人もかなりの割合にいると思うため、その取り組みたいと思う人が取り組むことができる環境をつくること、青海委員の言っていた、身近にフードドライブ窓口を設置するなど、取り組みたい人を後押しできるような施策を盛り込めるよう検討していきたい。

委員

金沢市はフードドライブから取り組み始めたが、事業者向けであるフードバンクについても取り組んでいただきたい。今回は新型コロナウイルスの影響で、お土産品やお祝いの品などを企業から大量に受け入れた。企業がフードバンクに寄付する案内や、寄付した場合に資源化率に算入できるような仕組みを検討してほしい。

また、フードドライブは常温保存のものしか受け入れをしていない。今後の課題としては、生鮮品や農産物であり、倉庫に入れてしまうとだめになり廃棄物となってしまうため、生産者などから近隣の社会福祉協議会やこども食堂と直接やりとりできるような仕組みができれば生鮮品も取り扱うことができるため検討してほしい。

会長

贈答品もフードドライブの対象ということであれば、窓口が近くであれば私も利用したい。食品ロス対策は事業系が特に重要だと思うが、フードバンクは行政の介入がなければ、NPOだけでは難しいと思うため、いろんな形のフードバンク事業を行政と市民が協働で実施することが食品ロスには一番効果的だと思う。

委員

新型コロナウイルスの影響により事業系ごみも減量化対策とは別にずいぶんと減ったが、経済が回っていない現状もあるため心苦しいところである。コンビニは小さいパッケージで惣菜を販売しているが、スーパーなどでも小さいパッケージのものが増えた。食品ロスも意識しながら

ら製造していると思うので、行政と事業者が気持ちを引き締め、計画が成り立っていけば良いと思う。

委員 食品ロスに関しては、国は各省庁を横断して取り組んでいるが、各省庁がそれぞれモデル事業や補助金制度を持っていると思う。金沢市が小さな事業を単独の財源で実施するのではなく、国の補助金を活用し、事業者と一体となって進めていくのが重要である。金沢市らしさのある独自の事業を検討していただきたい。

委員 今回初めて参加するが、農産物について規格外のものが残渣として大量に出る。こういったものをフードバンクに活用できないか。

環境政策課長 庁内ワーキングに農業水産振興課も入っているため、現状の把握を含め、今後の取組について相談する。

委員 例として、8番らーめんではキャベツの柔らかい部分はラーメンに使い、堅い部分は刻んで餃子に使っている。工場が土曜日に休みとなり、堅い部分が余ると相談があり、直接工場まで取りに行くことも食堂のネットワークができてある。排出場所と余った食材の情報をやりとりできるネットワークが構築できれば、こども食堂は新鮮なものを喜ぶし、社会福祉協議会ではシングルマザーに直接渡すことができる仕組みもあるため、試験的にぜひ運用してほしい。

会長 このようなことが実現できれば良い。

委員 フードバンクの窓口が3カ所に増設し、みんな喜んでいる。金沢市中央部で生活しているとどこも少し遠いと感じていたところ、第2本庁舎に増設となりとてもありがたい。校下により直接こども食堂に届けているところもあるなど、皆協力をしてきているし、婦人会の定例会での回収も実現できて良かった。

石川県の婦人団体では七尾市のフードバンク事業や、宝達志水町の農家が規格外の野菜を食堂に届ける取組などが新聞に掲載された。婦人会でも皆取り組んでくれているため、啓発のため引き続き取り組みたいと思う。

委員 資料3で紹介されたフードシェアリングアプリのように、若者の利用する広報媒体をもっと活用することで、幅広い世代に対して食品ロスに関する意識を啓発することができるのではないかと思う。

会長

若者に使いやすい媒体は大事である。

今日はいろんな意見が出た。新しい試みも生まれるかも知れず、期待できそうである。今日出た意見を踏まえて、計画の骨子案を庁内ワーキングで練って進めてほしい。

それでは、進行を事務局にお返しする。

事務局

本日は委員の皆様には長時間にわたり、御審議いただきお礼申し上げます。

以上をもって、令和2年度第1回金沢市廃棄物総合対策審議会を終了する。

※1 ナッジ・・・人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする政策手法

(別 紙)

令和2年度第1回金沢市廃棄物総合対策審議会出席者(順不同、敬称略)

会長 池本 良子 (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系教授)
青海 万里子 (公募委員)
金岡 幸子 (金沢市一般廃棄物事業協同組合理事長)
須崎 秀人 (公募委員)
中川 一成 (金沢市町会連合会会長)
能木場 由紀子 (金沢市校下婦人会連絡協議会会長)
三国 千秋 (北陸大学名誉教授)
吉田 孝之 (金沢農業振興協議会会長)
吉原 沙紀 (「金沢のごみを考える」学生連絡会)
川畑 俊之 (石川県生活環境部資源循環推進課長
石川県生活環境部長 脇田委員の代理出席)

※欠席者

奥井 めぐみ (金沢学院大学経営情報学部経営情報学科教授)
出村 昌史 (金沢大学医薬保健研究域医学系准教授)
西田 哲次 (金沢商工会議所常務理事)
松川 治彦 (石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事)

(事務局出席者)

吉田 康敏 (金沢市環境局長)
山口 和俊 (金沢市環境局担当部長兼環境政策課長)
永井 俊宏 (金沢市環境局担当部長兼ごみ減量推進課長)
勝田 平俊 (金沢市環境局担当部長兼施設管理課長)
田村 友美 (金沢市環境局家庭ごみ対策室長)
長田 敏成 (金沢市環境局事業ごみ対策室長)
宮村 浩一 (金沢市環境局ごみ減量推進課長補佐)
桜木 和也 (金沢市環境局環境政策課企画庶務係長)
木林 弘 (金沢市環境局ごみ減量推進課企画庶務係長)
森 晶子 (金沢市環境局環境政策課主査)
中村 諒 (金沢市環境局ごみ減量推進課主任主事)
森田 紀彦 (金沢市環境局ごみ減量推進課主事)
竹内 奈菜子 (金沢市環境局ごみ減量推進課主事)